



NEWS RELEASE

2016年1月4日
東ソー株式会社

社長年頭挨拶（1月4日、東ソー本社での年頭訓話から抜粋）

明けましておめでとうございます。今年も、皆さんや皆さんのご家族にとって、良い年になりますようお願いしています。

昨年の国際社会はイスラム国（IS）によるたくさんの悲劇、混乱、そして南シナ海での米中関係の緊迫化等、激動の年でした。国内経済に目を向けるとPVCの内需が10月に約1年ぶりに前年比プラスになったように、やっと一昨年4月の消費税増税の反動を抜け出したようです。しかし、自動車生産が15か月連続で前年比マイナスとなっているように、景気に力強さは感じられません。また、昨年は大企業のコンプライアンス違反が続出しました。当社も一人一人が「コンプライアンス違反、ごまかしは絶対にしない」ともう一度誓う必要があります。

今年の経営課題は第一にコーポレート・ガバナンス・コードです。当社は東証が求める73の原則のうち経営計画の開示と取締役会の実効性評価のみエクस्पラインとしています。いずれも2016年度中にコンプライするものとしています。中期経営計画は現在作成中です。ある程度の数値目標を入れる必要があると考えており、これから関係者と議論するつもりです。5月ごろ社内外に発表の予定です。

第二に安全改革です。今年度が4回目になる、安全改革の一環としての私の南陽・四日市計器室訪問は11月に終わりました。今回、製造現場の皆さんに伝えた事は「技術、技能の伝承はもちろん大事だが、ベテランの持っている過去の経験、知識、知恵が100%若い人達に伝わると考えるのは現実的ではない。従って、頼れるベテランがいない時に何かトラブルが起き、原因も分からず、それでも緊急に対応しなければならない時は、何とか運転継続でなく安全に停止する事。会社はその経済的損失を覚悟する」という事でした。

第三に業績予想の達成です。心配すれば切りがありませんが、今年度下期および2016年度の不安要因はMDI、エチレンアミンの需給悪化に尽きると思っています。中国以外の市場への拡販、価格政策、在庫管理等、関係者の注意深いかつタイムリーな判断に期待しています。またディーゼル排ガス不正が当社のハイシリカゼオライト事業に今後どういう影響があるかは現時点では予測が付きません。短期的にはゼオライト使用の方式への変更でプラスの影響があるかもしれませんが、長期的にはディーゼル乗用車の人気落ちるかもしれません。ただ、足元の販売は極めて順調でマレーシア計画には全く問題ないと思っています。

第四に成長への種まきです。今後は成長への投資に更にギアをあげるつもりでいます。分野の設定だけでは意味がありません。市場、技術、ビジネスモデルを明確にした具体的な案件でなければなりません。成長投資の対象はスペシャリティ中心ですが、ライフが短いのがスペシャリティの特徴でもあり、またそれほど高くない成功確率を考えれば種はたくさん必要です。自社開発から新規事業として一本立ちするまでには10年から15年がかかります。これを補うためのM&Aも必要でしょう。研究部門及び事業部とのディスカッションで、面白い提案がされる事を期待しています。

今まで「財務基盤の弱いコモディティの会社」と市場で言われていた当社もかなり変わってきたと思っています。今年も更なる発展を目指しましょう。